

Japanese
Experiences
47-1221

経験

フォニックス アリゾナ州 アメリカ合衆国
1947年12月21日



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

経験

1 「今日、あることが私のところに持ち込まれました。それは…私をひどく弱らせようとするものでした。どうしてこんなに弱くなるのか、自分でも理解できなかったのです。

集会の前になると、いつもそうでした…。私は決して病弱な人間にはなりたくなかった。私の人生の証を聞いたことがある人は皆知っていますが、あの熱病が原因だったのです。若い頃のことです。タバコなどのせいではありませんでした。

私は病弱でいたくなかった…。神に仕え、できる限りのことをしたかったです。フットボールもしましたし、体も酷使しました…。しかし、ある時から、それが私を引きずり下ろすようになりました。まるで何かが私を外へ引き出し、力を奪っていきようでした。

なぜなのか分かりませんでした。時にはあまりにも弱くなり、完全に意識を失ってしまうこともありました。人に運び出してもらい、何時間もしてからようやく意識が戻ることもあったのです。そして何が起きたのかも分からないままでした…。

私は思います…それはある意味で…」

2 「私はあまりにも真剣すぎるのだ、と言われました。あまりにもそのことを思い詰めすぎる、心をそこに置きすぎる、と。

『ジョン・ドウの赤ん坊のために祈ったら、あとは忘れなさい。それは神の仕事なんだから、癒すのは神の務めだ』と言われました。

『あなたはあまりにも真剣に思いすぎる。それを続ければ、精神的に参ってしまうことになる』とも言われました。

私の性格は…まあ、大げさに騒ぐようなものではありません。しかし彼らは、そのことを忘れなければならない、あなたは真剣すぎるのだ、と言いました。

でも私は、神の働きについて“真剣すぎる”ということはないと信じています。そうでしょうか？真剣であればあるほど、神はあなたをよりよく導くことができるのです。

それで…彼らは、私が精神的に崩れてしまうかもしれない、と言いました。

しかし私はそのまま進みました。

私を以前から知っている皆さんなら分かるでしょうが、ここに最初に来た頃、しばらくの間、私は自分の心の中に物事を押し込めようとしたのです…」

3 「…神の癒しを説いていたのです。おそらく私が生まれる前からずっと。そして私は、彼が七十一歳の時に会いましたが、その時のほうが、最初に会った頃よりもなお必要とされているように見えました。

そして私は彼がこう言うのを聞いたのです。『一年間でも、毎晩続けて集会を持つことができる』と…。

私は思いました。“そんなことをしたら、自分の命がもたないだろう”と。なぜそうなのか、私には分かりませんでした。

自分が聖霊のバプテスマを受けていることは知っていました。そしてボズワース兄弟も『自分も聖霊のバプテスマを受けている』と言っていました。それで私たちは兄弟でした。私たち二人を救われたのは同じ神です。

それなのに、なぜ彼は持ちこたえられて、私は持ちこたえられないのか、不思議でした。

そして私はこう思いました。『きっと彼のほうが、私よりも多くの聖霊を持っているのだろう』と。まあ、そんなふうに自分を慰めていたのです。

そして考えました。『今日は祈ろう。集会に行つて、神がもっと多くの聖霊を与えてくださらないか求めてみよう。そうすれば、もっと持ちこたえられるはずだ』と。

それで昨夜の礼拝に出ました。しかし、奇跡が起こっている最中でさえ、私は本当に、まったく同じ状態だったのです。」

4 「私は家に帰りました。愛する家族には何も言いませんでした。しかし今朝早く起きて、荒野へ出て行きました。ただ、このことを神と話しなければならなかったのです。どうしても理解できなかったのです。

しかし主は理解しておられます。主はすべてをご存じです。

荒野で祈っていると、しばらくしてから——それは、あなたが今聞いている私の声のような、はっきりとした声ではありませんでした(時にはそのように語られることもあります)。

しかし何か降りが来て、ただ語ったようでした。そしてそれは永遠に私の心に定まったのです。

何かこう言いました。

『あの人たちは御言葉によって説教している。しかしこれは賜物だ。人々はそれぞれ自分の信仰に頼っている。しかしこれは賜物によるのだ。だから、わたしから取るのだ。』

さて、私は“賜物そのもの”ではありません。分かりますか。私は、この世に賜物があることを信じています(それは本当です)。しかし賜物とは、神が天から下されるものです。

そしてそれは、神が望まれるなら、人の体を用いて、あるいは何であれ、神が置こうとされるものの上に置かれるのです。

ある時には、神はそれを一本の竿の上の青銅の蛇の上に置くことを選びました…」

5 【※この部分は、1950年12月3日頃の未確認メッセージからの転写と考えられます】

皆さん、ありがとうございます。

それでは、祈りのために、頭を垂れて、しばらくこのまま立っててください。

天の父よ、

今夜もう一度、永遠のこちら側で共に集い、フェニックスのこの集会においてあなたを礼拝することが許されたことを感謝いたします。

父よ、どうか今夜、私たちと共にいてください。

そして神の栄光のために、多くの偉大な御業が成し遂げられますように。

今ここにおられるすべての人を、あなたの神聖な臨在の中で祝福してください。

この礼拝を祝福してください。

癒しを祝福してください。

そしてイエスの偉大な御名が、ますます広まり、
ついには贖われた神の教会がすべて救われ、
もはや罪を犯さないところにまで至りますように。
父よ、それをお許してください。
今、この集会の残りの部分を祝福してください。
御子イエス・キリストの御名によってお願いいたします。
アーメン。

6 天国のこちら側で、今こうしてここに立っている以上に、私がいたいと思う場所はありません。

明日の夜で、ちょうど一年になります。私が皆さんにお会いしてから、明日で一年です。

ここへ来るとき、私は少し不安でした。皆さんは、私がスペイン語の教会へ行くのだと聞かされていました。そして私は思いました。「きっと受け入れてもらえないだろう」と。

しかし、あの心からの歓迎を受けたとき、私はいつもまた戻って来たいと思うようになりました。

それで、これから三晩、ここで集会を持ちます。そして日曜日には、サニー・スロープという名前だったと思いますが、そちらの別の教会で共に過ごします。

そして月曜日、十一日と十二日は、古きメキシコのティファナで集会を持ちます。

私は、できるだけ多くの国々を訪ねる時間を持ちたいのです。そして今は、本来なら休暇のはずなのですが…。

先週はマイアミにいました。マイアミでは素晴らしい集会がありました。しかし私はとても疲れていました。特に昨夜はそうでした。何百人もの人々が祈りの列を通りました。

主はマイアミで私たちに大きな働きを与えてくださいました。

天の父よ、

今夜もまた、あなたの御名によって呼ばれるこの家、神の家にいることが許されたことを感謝いたします。

ここは戒めの家であり、聖所であり、私たちが罪を示され、その罪が取り扱われる場所であることを私たちは知っています。

今、父よ、どうか私たちが犯したすべての罪、すべての過ちをお赦してください…。

しょう。(テープ欠損)

23 【※この部分は出所不明のメッセージからの転写です】

ここにおられる方で、これが神の御言葉だと信じている方はどれくらいいますか？

皆さん、信じていますね。

それでは、ルカによる福音書第5章をお開きください。

祈りの列に入る前に、少し親しみのある聖書箇所を読み、数分間それについて語りたと思います。

どうか御言葉を読む間、よく聞いてください。

「さて、群衆が神の言を聞こうとしてイエスに押し迫ってきたとき、イエスはゲネサレ湖のほとりに立っておられた。

そして、湖のほとりに二艘の舟があるのをご覧になった。漁師たちは舟から上がって網を洗っていた。

イエスはそのうちの一艘、シモンの舟に乗り込み、岸から少し漕ぎ出すように頼まれた。そして腰を下ろし、舟の上から群衆を教えられた。

話し終わると、シモンに言われた。

『沖へ漕ぎ出し、網を下ろして漁をなさい。』

シモンは答えて言った。

『先生、私たちは夜通し働きましたが、何も捕れませんでした。しかし、あなたのお言葉ですから、網を下ろしてみましよう。』

そしてそのとおりにすると、おびただしい数の魚がかかり、網は破れそうになった。

そこで、もう一艘の舟にいた仲間たちに合図して助けに来てもらった。

彼らが来て、二艘とも魚でいっぱいになり、沈みそうになった。」

24 しばらく頭を垂れて祈りましょう。

7 それから、家に帰って休むようにと言われました。これからの働きは、とても厳しいものになるからです。

今月二十九日から、再びペンサコーラで集会を始めます。そこでは五夜続けて集会があり、収容できる講堂がないため、大きなサーカス用テントを二つつなげて設営するそうです。

それから四日ほどの間に、二千マイル、あるいはそれ以上を移動して、カンザスシティの市営講堂で集会を持ちます。

そこからトピカへ行き、さらにイリノイ州エルジンへ戻り、それからシカゴへ、そしてワシントンへ、さらにカナダへと向かいます。

こうして集会は、十月五日まで続きます。

それから三週間の休暇をいただきます。そして次の始まりは南アフリカです。

そこからさらにオーストラリアへ行き、来年いっぱいかけてヨーロッパ諸国を巡る予定です。

そして私は確信しています…私はきっと…(テープ欠損)

8 人生というものは、まるで燃え尽きていく炎のようです。また一年が過ぎ去りました。しかし私は、このもう一年という余分の時間を与えられたことを感謝しています。この一年の間に、キリストのために多くのことが成し遂げられたのを見てきたからです。

そして今、思うのです。私たちは、これまでに知られたことのないような時代に直面しているのだと。国々は至るところで揺れ動き、ひどい混乱の中にあります。

しかし私は心から信じています。そう遠くないうちに、私たちが本当に愛しているお方が、力をもって来られるのを目にするでしょう——イエスです。

そして私は、主の助けによって、今年は昨年よりもさらに多くのことを成し遂げようと決意しています。すべては主の恵みによります。

ここを離れてから、年の終わりまでに、昨年一年だけで、イエスによって私の集会の中で明確に癒されたと確認されたケースは、約三万五千件にのぼります。

それは、ただ「癒された」と証した人数ではありません。医師の診断書による確認です。

そして、どれほど多くの癌、耳の聞こえない人、口のきけない人、目の見えない人、ほとんどあらゆる病があったか、私は数えきれません。

9 さて今夜ですが、外では十時まで集会があります。どうぞ今夜の集会を覚えてください。そして明日の夜も、引き続きメッセージがあります。

毎朝十時には、ガルシア兄弟がここで、スペイン語を理解される方々のために、癒しについて、またキリストに心をささげる道について教えています。スペイン語を話される方は、ぜひその集会にお越しください。

もしかすると、今夜の集会の途中で、私も少しこちらに来られるかもしれません。

さてこの時に、私の大切なお客様をご紹介したいと思います。

おそらく、神の癒しについて最も聖書的権威を持つ方のお一人でしょう。長年アメリカで働いてこられました。

皆さんの多くはご存じでしょうが、私は…(欠損)…そのこともあって…。

私は少年のころ、彼の本を読んでいました。その時は、まさか自分がこの方にお会いする日が来るとは思いもしませんでした。何年も前に天に召されたのだと聞いていたのですから。

しかし先日、マイアミで、この愛する姉妹と兄弟にお会いしました。私の集会に来られて、座っておられました。そして他の友人たちと共ににお会いする機会がありました。

そして先週の日曜日に、彼が私のところへ来てくださったのです。

10 皆さんの多くは、彼をご存じでしょう。

ここに上がってきて、皆さんに「こんにちは」とご挨拶していただきたいと思っています。

きっとスペイン語では話せないでしょうから、英語でお話ししていただくこととなります。

その方は、F・F・ボズワース博士です。

私は信じています。いつの日か神はそれを栄誉の殿堂に掲げられるでしょう。

迫害が…。

21 さて、これは開拓の時代です。(テープ欠損)

今朝、ここにおられるある牧師と話しました。彼は別の教会組織に属している方です。ここに来られ、この壇上に立たれました。

昨夜、私たちの集会で聖霊がどのように降ったか、ご存じでしょう。彼はここに座っていました。別の団体に属していながら、こう言いました。

「兄弟よ、もし…私は皆と共に喜びました。」

それこそが正しい態度です。

それは何かをもたらしました。ほんの少しの時間で、それは“傷”になるころだったのです。彼は牧師でした。体の一部だったのです。もし違った態度を取っていたら、体の中の痛み、傷になっていたでしょう。

しかし彼はそうしませんでした。自分の霊をその働きの中にゆだねました。

もし、こんな小さな集まりの中でそれがこれほど働くなら、神の教会全体の中でそれが働いたなら、どうなるのでしょうか？

皆が一つになれば、何が起こるか想像もできません。そうでしょうか？

「みな心を一つにして一つ所に集まっていると、天から激しい風が吹いてくるような音が起こり、彼らの座っていた家全体を満たした。」

22 ガルシア姉妹、もう準備はできていますか？

皆さんきっと…(テープ欠損)

丘の向こう側に座っておられるんですね。私はあちらへ行って、あの茂みの下に座り、あなた方の歌を聞いていますよ。だから、向こうに着いたら私を探してください。

それは本当に素晴らしいですね。どうでしたか？よかったでしょう？ああ、本当に。

今、その記録が残っています。そして…兄弟がそれを持って来てくれるで

いました。

彼女が顔を向けて歩き去ろうとしたとき、それは再び彼女の上に戻りました。

彼女は戻って来ました。そして再び追い出され、また見えるようになりました。彼女は大喜びでした。

しかし去って行ったとき、また戻ってしまったのです。(テープ欠損)

人々がさまざまな教理を持って来るとき——同じ心、同じ思いではなく——(テープ欠損)…しかし一つの心、一つの思いでいなさい。

すべての人を受け入れなさい。あなたが一つの御霊によって結ばれ、キリストのからだの一員である限り…。

さて、もし私の体に大きな癌があったら、あるいは大きな傷があったら、今夜私の体は正常に働くことができないでしょう。

どこかに不調があれば、全身が影響を受けます。

それと同じなのです…。

20 今、教会の連合が起ころうとしています。すでに全国的な規模で進んでいます。あなた方もご存じでしょう…。

彼らは結束しています。

そして今、世界には二つの大きな勢力が動いています。何かは言わなくても分かるでしょう。

一つは勢力の結合、もう一つはカトリック主義と共産主義が一つになろうとしていることです。

一方はキリストに敵対し、もう一方はカトリック教会です。

その二つの勢力が結びつこうとしています。

世界のすべての人は、いずれどちらか一方につくことを迫られるでしょう。

その時こそ、小さな聖霊の教会が一つに集められるのです。

その時こそ…(テープ欠損)…長い間、批判の的とされてきました。しかし

ここにおられる方で、ボズワース博士のお話を聞いたことのある方はどれくらいいますか？

それでは、ボズワース兄弟、どうぞこちらへ。

(ボズワース兄弟が話す)

ありがとうございます、ボズワース兄弟。

あのようなお方が、あのような言葉を言ってくださると、本当に嬉しく思います。

彼は、私が生まれる前から神の癒しを説教していたのだと思います。

それだけでも、たいした権威と言えるでしょう？

11 さて今夜も、祈ってもらいたい方がたくさんおられるようですね。

ここで英語が分かる方で、「祈ってほしい」と思っている方は手を挙げてください。見せてください。

おお、かなり多いですね。もちろん、英語が分からない方もおられますが。

今夜また小さな聖歌隊の皆さんの姿を見られて嬉しく思います。

明日の夜、もし私が少し早く来られたら、「Only Believe(ただ信ぜよ)」を歌ってくれませんか？

英語はわかりますよね？それはよかった。

あなた方の写真は、私の書斎に置いてあります。見るたびに、あの若い姉妹を神様が祝福して下さるよう祈っています。本当に素晴らしい方でした。

そしてあの若い男性もいましたね。バスを歌っていました。私は歌のことは全く分かりませんが…。

それで、あのスペイン語の言葉を思い出すたびに、「オー、イエス」とか何とか…「オイェ、オイェ」でしたか？

私はうまく言えませんでしたね。皆さんが笑ってくれたのを覚えています。ずいぶんめちやくちやにしてみました。

それから、耳の聞こえない女性がいました。

彼女の手から振動が抜けるのを感じ、癒されたと分かりました。でも、彼女にそれを伝えられなかったのです。彼女は私を見て微笑んでいました。私は何度も「聞こえますか？聞こえますか？」と言いました。

すると小さな兄弟が言いました。「“オイエ”と言ってあげてください」と。

それで私は「オー、イエス」とか何とか言いました。

若い姉妹は笑いました。でも、とにかく彼女は聞こえたのです。

それでよかった。それで十分でした。彼女は癒されたのですから。

来週は、知っている言葉が「オイエ」と「フェニックス」の二つだけでメキシコへ行くこととなります。でも、神を知っている人々に会いに行くのです。

さて、ここで少しの間、英語を話す方々に、そして皆さん全体に向けて、少しだけお話ししたいと思います。少し御言葉を読みましょう。

「信仰は聞くことから来る」、そして「聞くことは御言葉による」のです。そうですね？

御言葉は…もしあなたの信仰を、確かな一つの事の上で据えることができるなら…。

12 少し前のことですが、私は実に恐ろしい悪霊と対峙しました。その悪霊は私を呪い、唾を吐きかけ、噛みつこうとし、拘束衣の中で暴れていました。

その悪霊に向かっていったとき、私は一つの事を知っていました。まず第一に、キリストはその人をその悪霊から解放するために死なれた、ということです。それが御言葉です。

そして私は知っていました。あの夜、主の御使いが私のところに来て語られたことを。

「もし人々にあなたを信じさせることができ、そしてあなたが祈るときに真実であるなら、どんなものもその祈りの前に立ちはだかることはない」と。

ですから、私は二重の証しを持っていました。

それゆえ、イエス・キリストの御名によって、その悪霊にその人から出て行くよう命じることができました。

私は今から、はっきりと核心に触れます…。

18 (テープ欠損)…この家は神の栄光のためにささげられています。

さて、もしかすると今夜が、しばらくの間、皆さんとご一緒する最後の夜になるかもしれません。そこで、これまで何度も申し上げてきたことを、もう一度お伝えします。

もしその人がそこに立ち続けるなら、私にできることはすべて行った、と言えるでしょう。もしその人が死ぬことを主が示されたなら別ですが、その時はそれを明らかにします。

しかし、あなたは知っていますか？ そのようなことでも、問題を招くことがあるのです。

モーセがそうでした。

モーセには岩を打つ力がありました。二度目でさえも。しかしそれは明らかに神のみこころに反することでした。それによって、神のご計画そのものを乱してしまったのです。そうではありませんか？

彼には神の前にその力がありました。最初に岩を打ったとき、水は出ませんでした。そして彼はもう一度打ち、水を呼び出しました。

私たちの多くは、それが神のみこころではなかったことを知っています。しかし預言者にはそれを行う力があつたのです。

しかしその結果、彼はイスラエルの子らと共に約束の地に入ることができませんでした。

分かりますか？

19 さて、多くの場合、悪霊が追い出され、そしてそれが戻ってくるのを感じるがあります。そのとき私は…そのままにしておくのです。恐れがあるからです。

最近、バンクーバーでの集会だつたと思いますが、何年も盲目だつたドイツ人の女性がいました。

盲目の霊が彼女から追い出された瞬間、彼女はドイツ語で叫び始めました。そこに立っている娘の姿を見ていたのです。周りの人々は皆、叫び、泣いて

あなたはこう言うでしょう。

「でもブラナム兄弟、それをどうやってなさるのですか？」

集会にいるとき、半インチ幅の白いリボンが何百ヤードも送られてきます。私はそれを受け取り、昼間、一人で祈りの時間を持ちます。そして一本一本を手に取り、その人が癒されるように神に祈ります。

そしてそれを秘書や各事務所へ送り返し、そこからすぐに病人のもとへ発送されます。

手紙は形式的なものかもしれませんが。しかしリボンは、私が一つ一つ、心からの真実をもって祈りながら手に取ったものです。

私はいつもこう思うのです。

「もし自分の赤ちゃんが病気で、誰かに祈ってもらうために頼んだなら、その人が真剣に祈ってくれることを望むだろう」と。

そうでしょう？

だから私は、できる限り誠実に祈ろうと努めています。そして今夜も同じです。皆さんの祈りと同じように…。

17 さて、この働きについてですが…。

私の知る限り、この説教壇を歩いていった人の中で、完全に解放されたとは断言できなかった人は、ただ一人だけです。

それは、てんかんを患っていた若い男性でした。

彼がここを通ったとき、霊は彼から離れました。しかし、また戻ってきました。再び離れ、また戻ってきました。

私は三度目も試みました。

その青年は一時的に明るくなり、微笑み、周りを見回しました。しかししばらくすると、再びそれが彼の上に現れるのが分かったのです。

さて、皆さんに知っていただきたいことがあります。

よく聞いてください。

するとその人は拘束衣から解き放たれ、正気を取り戻して、普通に家へ帰って行ったのです。

なぜでしょうか？

それは、イエス・キリストの御名の權威によるのです。

ああ、地獄にいるすべての悪霊でさえ、その御名に服従するのです。その通りです。

それは、あらゆる名にまさる名、イエスの御名です。

その名は人の唇によって与えられたものではありません。

聖霊——偉大なるガブリエルがマリヤのもとに下り、「その名をイエスと呼びなさい」と告げたのです。

13 そしてその御名が、最初に人間の唇から語られ、

それが人の耳に入ったとき——

母の胎内にいた、命のないような赤ん坊が、喜びに躍り上がりました。

バプテスマのヨハネです。そうでしょう？

六か月の間、命のしるしもなかったその子が、命を受けました。

その言葉が母の耳に入ったとたん、その胎内の子が喜びに躍ったのです。

もしその御名が、死んだような者を喜びに躍らせるのなら、

すでに生きている者には、どれほどのことをして下さるのでしょうか。そうではありませんか？

さて、ヨハネによる福音書第4章46節から、少し読んで説明したいと思います。

どうか、誰も急がないでください。

いつも静かに、落ち着いて、平静でいてください。

この賜物についても、多くのことが増し加えられました。

この一年の間に、前回ここに来た時には知らなかった多くのことを学びました。

そして、私たちが前進するならば、それはさらに進み続けると信じています。私はそう信頼しています。

とにかく、私は主がそうしてくださると信じています。

そして、主に近づくときは、決して急いではいけません。

決して慌てて近づいてはいけません…。

(テープ欠損)

14 もし私がそこへ戻って、飛行機を出してもらい、行ってすぐ戻って来られたならよかったです。もちろんそれはできませんでした。

それで秘書が連絡を送りました。すべての手紙に返事ができているとは思いませんが…。

秘書はその方にハンカチ、あるいは小さなリボンを送りました。私たちは毎週何千枚もそれを送っていて、使い方の説明書も添えています。

そのハンカチを赤ちゃんの上に置いたのです。

軍医でさえ、「もう二度と正常にはならないだろう」と言っていました。

しかし、そのハンカチが赤ちゃんに留められてから四時間後、その子は完全に正常な状態に戻ったのです。

ほら、神はすべてのことをなさることがおできになるのです。

昨夜も話しましたが…(テープ欠損)

その出来事は小さな新聞にも載りました。

「ほとんど死んだも同然の者が、祈りによって立ち上がる」と。

私はその女性にもハンカチ、あるいはリボンを送りました。

彼女は癌の末期でした。

しかし三週間後、主治医は彼女を「完治」と宣言しました。

完全に健康になっていたのです。

その新聞には集会の様子も詳しく書かれていました。

それが広まり、国のあちらこちらから、文字どおり何百通、何百通もの手紙が届きました。

ハンカチを送ってほしいという願いの手紙です。

15 さて、次の十一月の初めには(テープ欠損)、主のみこころならば(テープ欠損)、海外宣教へ出発します。北米大陸を離れ、南アフリカへ、さらにオーストラリアへ、そして各地を巡る予定です。

どうか、私のために祈ってくださいますね?

私も祈ります。そして、もし何か私にできることがあれば、いつでも…。

さて、手紙についてですが。個人的な手紙を書いてくださることは本当にありがたいのですが、なぜ私が一通一通に個人的に返事ができないのか、どうかご理解ください。

毎日、何百通、何百通もの手紙が届くのです。ですから、すべてに個人的に返信することはできません。

しかし、必ず目を通し、対応をさせていただきます。

16 さて、このハンカチのことを覚えておいてください。皆さんはこう思われるでしょう。

「ブラナム兄弟、このハンカチはどういうことなのですか?」

あなたへの返事の手紙は、形式的なものかもしれませんが。秘書からの返信かもしれません。しかし、そのリボンは、私自身が直接祈りをささげたものです。

多くの人は手紙やハンカチに油を塗って“塗油”します。しかし聖書をよく見るなら、それらは塗油されたのではなく、パウロの身から取られたものだったのです。(そうでしょう?)ハンカチや前掛けが、彼の体から取られました。

それは何かと言えば、「祝福」なのです。ちょうどエリヤが自分の杖を取り、ゲハジに「これを子どもの上に置きなさい」と言ったように。彼は、自分が触れたものが祝福されていることを知っていたのです。